２０１９　ルール改正の概要

**１　キックオフ**

・トスで勝ったチームは、「キックオフ」か「攻めるゴール（自陣）」を選ぶことができる。

**２　ハンドリングのファウルについて**

〇競技者が次のことを行った場合、反則となる。

①手や腕をボールの方向に動かす場合を含め、手や腕を用いて意図的にボールに触れる。

②ボールが手や腕に触れた後に、ボールを保持して、またはコントロールして「相手競技者のゴールに得点する」「得点の機会を作り出す」。

②については偶発的であっても反則となります。

〇競技者が次のことを行った場合、通常は反則となる。

・手や腕を用いて競技者の体を不自然に大きくした。

・競技者の手や腕が肩の位置以上の高さにある。

〇次のようにボールが競技者の手や腕に触れた場合は、通常は反則ではない。

・競技者自身の頭または体（足を含む）から直接触れる。

・近くにいた別の競技者の頭または体（足を含む）から直接触れる。

・手や腕を用いて競技者の体を不自然に大きくしていない。

・競技者が倒れ、体を支えるための手や腕が体と地面の間にある。

ハンドリングがファウルになる場合は、以下の３点に大別できるようです。

「意図的に手や腕でボールに触れる」

「不用意に体を大きく見せるために、手や腕を使う」

「偶発的であっても、手や腕に当たったボールを保持して得点したり、得点の機会を得る」

**３　ゴールキック**

蹴られて明らかに動いたときにインプレーとなる。

・ゴールキックを行うとき、相手競技者はペナルティエリアの外に出なければならない。

・インプレーになったら（ボールが明らかに動いたら）、相手競技者であってもペナルティエリア内でボールをプレーすることは可能。

・ゴールキックが行われるとき、相手競技者がペナルティエリアから出る時間がなく残っていた場合、主審はプレーを続けさせることができる。（クイックスタートへの対応）

**４　ドロップボール**

①プレーをペナルティエリア内で止めた場合は、ボールはＧＫにドロップされる。

②プレーをペナルティエリア外で止められた場合は、ボールは最後にボールに触れたチームの１名の競技者にドロップされる。両チームの全てのその他の競技者はドロップの位置から４ｍ以上離れなければならない。

③主審（または、そのほかの審判員）に当たり、ゴールに入ったり、攻守が変わったり、あるいは、それにより新たな攻撃が始まった場合、ドロップボールとなる。

**５　フリーキックの守備のための壁**

・守備のための壁が３人以上の競技者で作られたならば、すべての攻撃側競技者は壁から１ｍ以上離れなければならない。１ｍ以内に侵入したら相手の間接フリーキックとなる。

**６　交代で退く選手**

・交代で退く競技者は、主審から指示された場合を除き、境界線に最も近い位置からフィールドを出なければならない。

道北ブロックでは基本今まで通りですが、明確化されました。

以上６点のほかにも改正点があります。各審判員及びチーム役員、選手はルールを確認してください。